

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害児保育園ヘレン中村橋		
○保護者評価実施期間	2024年10月24日		～ 2024年11月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2024年10月24日		～ 2024年11月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている 取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に則り、子どもひとりひとりに合った支援を実行している	異業種スタッフ全員で子どもの個別の特性を把握し、モニタリングし、その情報や意見を児発管が集め個別支援計画を作成している	自園に留まらず、他園の状況も把握しながら最適な支援方法等を考えていくようにしたい
2	保育スタッフ、看護師、リハビリスタッフ等の子どもに関わる異業種スタッフ間の連携が取れている	各種ミーティングや書面での伝達等を工夫し、情報の共有がもれなく行きわたるようにしている	情報共有に留まらずに、園の意思決定においても、スタッフ間の風通しが良くなる伝達の仕組みを工夫し、滞りない円運営が出来ようにします
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人員配置に関して、余裕のある配置は難しい現状があり、スタッフの感染症罹患等の不測の事態への対応が即座に取りにくい、そういう体制に不安だという意見がある	配置人数は、配置基準は満たしているが、それ以上の配置となると財務や採用状況も合わせて決められるものであるため、経営全体の課題である	スタッフの休暇等に柔軟に対応出来るよう、複数園勤務看護師の運用や他園からのヘルプの調整等を実施していく
2	地域住民への開かれた園という事では、まだその認知度は低い	館内では、成人のケアセンターとの交流は積極的に行い、また近隣の保育園との交流も始めてがいるが、地域住民の認知はまだまだ足りないものがある	近隣の保育園との交流も積極的に行い、また練馬区の各御担当、子ども発達センター子ども家庭支援センターとの連携を今以上にとっていく。また地域住民への認知を上げるための開かれたイベント等も検討していきたい
3			